

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 144 2013.9.1 連絡先 402-1622 >

「オレンジルートと 日本国憲法のルーツを訪ねる」

高知・徳島へ「オレンジルートと日本国憲法のルーツを訪ねる」平和ツアーに参加しました。

高知県本山町のかつて米軍艦載機が墜落した早明浦ダムでは、地元の平和委員会の方から、当時の様子や「低空飛行訓練では山肌をなめるように右に左に機体を傾け、全く裏返した状態で飛んでいたこともある」というお話を聞きました。轟音と墜落の恐れという二重の苦しみのもとで暮らしているかと思うと、「日本の空はいったい誰のもの?!」と改めて怒りが湧いてきました。和歌山県南部の椿山ダムから徳島県海陽町、高知県本山町へ、そして愛媛県へと続くのが米軍が決めた訓練空域「オレンジルート」です。海陽町でも、米軍機が飛んでくる様子を伺いました。

高知にある「自由民権資料館」では、明治14年自由民権運動のたたかいの中で起草された植木枝盛の「東洋大日本国国憲按」についてお話を聞きました。この草案ではすでに、「天賦人權説」が基本となっており、『人権は元々人間にあるもの、しかし放っておくと保障されない、人権を守らせるために国家があり憲法がある』と高らかに謳っていることを説明

してくださった館長さんは、「この植木枝盛の東洋大日本国国憲按が、日本国憲法制定の過程で鈴木安蔵の手で再び蘇って日本国憲法につながった」ともおっしゃり、ストーンと胸に落ちました。

帰りに立ち寄った、宍喰温泉はちょうど白浜の対岸あたりにあるためか、白浜温泉とよく似た泉質でとても気持ちがよく、少し賢くなった頭とともに、明日への活力が湧いてきました。



南国市に残る戦闘機の格納庫・掩体壕（えんたいごう）。市教育委員会が管理。

みち子のひとりごと 夏の思い出?

このところ、夏は平和を考える行事が多いせい、また平和を脅かすようなことが多いせい、どうしても平和に関係する記事が多くなりました。

先日参加した生協病院の平和夏まつりでは、雨が降ったりやんだりのなか、童謡をうたう会のみな

さん中心にみんなで歌う時には雨は上がり、歌声が響きました。この時期、雨に濡れながらの準備もそれなりに楽しいものでした。参加のみなさん、お疲れさまでした。

前に「節電、節電」と今年言わないのは?ということを書きましたが、「それは、熱中症が多いから」というご意見をいただきました。なるほど、そういうこともあって、電力会社は「節電」を言えないんですね。

8月も終わります。少し早いです。夏を振り返ってみました。



平和新聞（日本平和委員会発行）2025号を見ていると、下のような記事がありました。

当時を語る人が少なくなっている中で、より多くの人に知っていただきたいと思い、紙面の関係上一部省略もしていますが、ご紹介します。

このような時代背景を知りつつ、映画「風立ちぬ」を見てみたいと思います。

映画「風立ちぬ」の時代の 軍用機生産の現場は

「零戦」の設計者、堀越二郎氏を主人公にした映画「風立ちぬ」（宮崎駿監督）が話題です。映画には描かれていない戦時中の軍用機生産の現場の実態について、当時、堀越氏と同じく三菱重工業名古屋航空機製作所に勤めていた村松寿人さん（愛知県平和委員会会員）に聞きました。

1944年3月、国民学校高等科を卒業した私は、「産業戦士」になるべく三菱重工業名古屋航空機製作所に入所し、4カ月の実習教育を経て8月に道徳工場に配属されました。

私の仕事は、陸軍の「100式司令部偵察機」の胴体や翼の板金加工でした。勤務は午前7時半から午後5時半までの10時間。毎朝、全員で「我らは天皇陛下の御ために働き、我らの生産は国運を決す。誓って生産戦に勝ちぬかん」と斉唱してから作業を開始しました。

道徳工場では、12～14歳の朝鮮人の少女100人以上が「女子勤労挺身隊」として働かされていました。（中略）

彼女たちが、「日本に行けば女学校に入れて勉強ができる」とだまされて日本に来たことは後で知りました。自分の妹たちは空襲を避けて田舎へ疎開していくのに、同年代の朝鮮の子たちは軍需工場できつい仕事をさせられるということが、理解できませんでした。また、畑で農作業をしていたら、突然やってきた警察と日本兵にトラックに乗せられ、家族に告げる間もなく日本に連行されたという男性もいて、軍国少年だった私も、これは酷いことをするものだと思いました。

同年12月7日の東南海地震（震度6）で、道徳工場は倒壊し、朝鮮女子挺身隊の6人を含む60人が犠牲となりました。

道徳工場は、元々は紡績工場だったのを、軍用機生産のために軍が接收したものでした。巨大な航空機を製造するために、強度を保つ隔壁さえも取り払っていたのです。当時は、航空機優先で働く人の安全など全く考えられていませんでした。戦後、三菱は戦時犠牲者の慰霊碑をつくりましたが、地震で亡くなった朝鮮人少女の名前は刻まれていませんでした。後に、市民運動の抗議で6人の名前が追加されました。（中略）

国や三菱は、「日韓請求権協定で保障問題はすでに解決済み」「今の三菱は戦前の三菱を継承していない」などと主張し続けるのではなく、戦争責任に向き合い、元挺身隊の女性や遺族らが求める謝罪と補償を直ちに行うべきです。